



Discover a New World of Service

見つけよう 奉仕の新生面



会長 川村徳男 幹事 迎田 稔 クラブ奉仕 山口篤之助 職業奉仕 佐藤 忠 社会奉仕 吉野 勲 国際奉仕 新穂光一郎 青少年奉仕 藤川享磨

出席報告：会員 74 名 出席 55 名 出席率 74.32% 前回出席率 77.03% 修正出席 74 名 確定出席率 100%

四つのテスト

- ㊦ 真実かどうか？
- ㊧ 好意と友情を深めるか？
- ㊨ みんなに公平か？
- ㊩ みんなのためになるかどうか？

会長報告

川村 徳男 君

1. 先週の8日(土)に“今後のR・A・Cについて懇談。”という主テーマで懇談会がありました。ご案内のとおり、ローターアクト委員会とローターアクトのOB会が主体ということでやりましたので、現会員からは高橋会長ただ一人を招待し、OBから7名、ロータリアン側が5名で、懇談するにはちょうどよいぐらいの人員でした。

会議所の小野寺君が司会をしてくれまして、高橋現会長から、総体として会員の数が少ない(8名)ため、何かをやるにしても出席者が少なく、何をやったらよいか活動の決定もなかなかできない。などの悩みが話されましたが、人数と魅力のある集会、活動の悪循環があるようです。OBの諸君からも大へん前向きの建設的な意見が活発に出されましたし、幸い、R・A・C創立当時の幹事として重要な役割を果たされた市川さんも出られて貴重なご意見を述べられ、今後のあり方に大へん参考になったと思います。今現在、落ちこんでいるR・A・Cの健全な発展を期待するには、RCのOB会の三者の連携による、たゆみない努力が必要だと思えます。懇談会には私ども現会長・幹事も、また、ありがたいことに次年度の会長・幹事も出席されました。どうか来年度も引き続きR・A・Cをもちたてるよう会員の皆さまにもよろしくお願いを申し上げます。

2. 先週の火曜日の例会が終りましてから、創立記念日のお祝いのお餅とクラブ資料の年度別入退会者名簿をお届けしながら、名誉会員のお二方のところにごあいさつに伺ってまいりました。

3. 次の例会までの行事

(1) ロータリー関係

本日は今年度最後のクラブ協議会がありますので、よろしくお願ひ致します。

14日(金)はファイヤー・サイド・ミーティングが予定されていますが、後程石井委員長から詳細のお話があります。

(2) 一般の行事

今日は暦の上での入梅です。実際はもう先週の土曜に、つゆ入り宣言がされております。

また、16日の日曜は父の日です。

どうか会員の皆さま健康には充分に気をつけて下さい。近ごろ50才代が危険な年令だということを知ったことがありますので、とくに50代の若いお父さま方は、つゆどきの暴飲、寝不足にはご用心下さい。

幹事報告

迎田 稔 君

○ 例会場変更のお知らせ

山形北R.C. オースマホテル5階

○ 年次大会のご案内

第263地区 高山市

○ 回覧→東京R.C.会報

庄内空港の建設を推進しましょう

ロータリークラブとチャーターメンバー

津田晋介君



今から一年前のことですが、創立総会でチャーターメンバーだからスピーチをやれと、こう言われたんですけども、その、すっかり忘れてしまったと言って肩透かしをしました。その時は何か一寸いい気持ちにな

りましたけれども、次第に日が経つにつれて、無銭飲食をしたんじゃないかという気分になりましたね。これは何とかしなくちゃならないと、どうせろくなことは喋れないにしても、食い逃げということはないということで、プログラム委員に、丁度今日が一周年、一年後ですので、少しこの前の支払いをさせて頂き度いと思います。ロータリーの創立の者ですので、ロータリーの創立のことにに関して、若干話したいと思います。題は、ロータリークラブとチャーターメンバーという題で、一寸お話します。

チャーターメンバーというのは、どういうふうに皆さん解釈されているか。新しく入られた会員もいると思いますが、第一番目の意味は、チャーターメンバーと言うのは、クラブ創立当時の会員というふうに解釈されています。それで間違いはないんですよ。それで間違いはないんですが、しかしそれだけではないんですね。第二の意味がある。第二の意味というのはどういう意味かと言いますと、創立当時の会員ということは、即ちクラブを作った会員なんです。ただ時期が創立当時からという、早いというだけではなくて、クラブと言うのは会員が無ければ出来ないので、創立当時の会員というのは、結局クラブを作った会員、それ以外の会員は、入ってきた会員。そういう質的な違いもあるわけです。その他に、第三の意味としましては、チャーターメンバーというのは、これはチャーターメンバーしかねない。それ以外のメンバーは絶対になれないんですね。会長とか幹事とか、これは誰でもなろうと思えばなれるんです。“ガバナー”だ

ってそうですね。誰だってなろうと思えばなれるんです。チャーターメンバーだけは、これは絶対にチャーターメンバー以外の者は誰もなれない。こういう意味が本当のチャーターメンバーなのでございます。従って皆さんから、少しは敬意の目をもって見られたいと、こう思うのでありますが、しかしそれと同時にですね、チャーターメンバーというのは、言ってみれば悲しむべき存在なんです。何故かと言いますと、クラブとチャーターメンバーの関係と言いますのは、反比例の関係にある。もっと具体的に言いますと、クラブが発展するにつれて、それに反比例してチャーターメンバーの数が少なくなっていく。これが偽らざる現実でございます。現に鶴岡クラブ創立20周年の時は6人、6名ですね。25周年になったら何名かと言うと、2名しかいなくなった。従って線を引くとこういうことになる。すると、あと何年経てばですね、あまりはっきり書くと困りますが……。もう、あと僅かで消滅してしまうという悲しい運命を、チャーターメンバーというのは担っているわけでございます。従って、そういう意味におきましては、ひとつ憐憫の情をもってチャーターメンバーを見て頂き度い……ということでございます。

ロータリークラブとチャーターメンバーという題では、まあこれくらいにして、まだ時間が少しございますので、あとは雑談ということにさせていただきます。

草柳大蔵という評論家があります。皆さんご存知のことと思いますが。この草柳大蔵の本に「満鉄調査部」という本があります。文芸春秋、文春文庫から上下2巻で出ていますが、その上巻の方の初めの方にこういう言葉が書かれてあったんです。その「満鉄調査部」というのは、ご存知のように南満州鉄道株の調査部で、非常にレポートを沢山作成してまあそういう点から調査機関だったんですが、その「満鉄調査部」が沢山レポートを作りましたけれども、そのうちでも特に優れたレポートがあったと、そのレポートは何だか、という中国抗戦力、支那

の抗戦力を調査したというレポートなんです。何人か分担して、そのレポートをまとめて、それを満鉄の理事会に提出し、理事全員がそれを読んで、これは素晴らしいレポートだということで、これは満鉄の内部に留めて置くのはもったいないと、これは陸軍省なり、海軍省なりに提出すべきだ、というので、それを何部か陸軍省なり、参謀本部なり、海軍省に提出した。何か反応があるだろうかと思って満鉄ではこう見ておいたようですが、全然反応が無かったそうですね。陸軍省からも、海軍省からも。それで満鉄の理事連中はがっかりしたというふうなことが書いてあります。で、ここまでは草柳大蔵のその著書に書いてあることです。これからは、それに基ずく私の感想なんです。いったい何故満鉄の理事が非常に感嘆した、敬服したそのレポートに対して、陸軍省なり、参謀本部なりが関心を示さなかったかということの疑問なのです。陸軍省の将校とか、参謀本部の連中は陸軍の軍人のエリート中のエリートですね。士官学校はだいたい500人位入学する。そのうちの割が陸軍大学に入るわけです。その50人の陸軍大学の卒業生のうちの割、5名位が恩師の軍刀をもらうわけですが、だいたい陸軍省や参謀本部に勤務するのは、その恩師の軍刀組の将校が勤務するわけです。だから彼等は結局頭は非常にいいわけなんです。何故それではその満鉄の理事が非常に感銘したレポートに対して何も反応を示さなかったのか、という疑問でございます。三つの場合が考えられます。第一番目は、読まなかった。読まなければ、これはしょうがないですね。読んで内容が分らなかった。こんな事は有り得ないわけですね。第三番目には、読んで内容が分ったけれども、敢えて無視した。と、この三つの場合しか考えられないですね。二番目の場合は無いとすれば、第一と第三の場合しかない。読まなかった、読んで内容は分ったけれども無視したと。何故それではこの二つのことが起ったのか。せっかく満鉄で提供してくれたこのレポートを、何故読まなかったのか。あるいは読んで内容が分っても何故無視したのか、ということが非常に大きな問題だと思うのであります。一口で言うならば、それは、私は“高ぶり”だと思うんです。“驕り”と言いますかね。それがこのような結果になったと思うのであります。

あのレポートを見まして、草柳大蔵もちょっと書いておるようですが、中国、支那の抗戦力というものは、決してあなどるべきものではないと、戦争を始めたら、大変なことになるぞと、いうことがあのレポートに書いてあったそうです。然るに、あの支那事変が勃発させた陸軍は、まあ反対派もおりましたけれども、大勢は主戦派で、結局は3ヶ月で降服させるという見込みでやったわけですが、その3ヶ月が結局3年になり、4年になり、4年になったって解決する見込みが全然立たなかった。即ち、泥沼に入った誤りを犯したわけでございます。それとおなじ誤ちをアメリカも犯しているわけです。ベトナム戦争でそれを犯しているんです。当時アメリカというのは、世界第一の軍事大国です。ベトナムというのは、ついこの間フランスから独立したばかりの、ちっちゃな国です。これは世界の誰もが、もうアメリカが戦争を始めれば、ベトナムなどもう1ヶ月か2ヶ月だろうと、誰もが思ったと思うんです。然るにどうだと言うと、10年、15年かかった。もう15年かかっちゃって、もうアメリカでは物価があがって、丁度支那事変が長引いて、日本の物価があがったのと同じように、物価があがる。いつになったら、それじゃ決まりがつくかという見通しが全然立たない。同じような泥沼に落ち込んだわけです。

しかし、違う点が一点だけありますね。日本の場合は、支那事変を止めよう、止めようと思いながらこれを全然止めさせられなかった。あの歴代の内閣の第一の施政方針は、支那事変を解決し、神権を安んじ、奉つるというのが、もう歴代内閣の第一だったわけです。しかし全然戦争を、支那事変を止めさせられなかった。しかしアメリカは違っていましたね。アメリカは、大統領の命令一下55万のアメリカ軍を一挙に引揚げてしまった。こういう点がアメリカと日本の違いでありますけれども、見通しを誤ったという点については同じですね。日本も中国をあなどって、3ヶ月もあれば手をあげるんだ、という見通し。アメリカはまたアメリカで、「なあに、ベトナムなんか2~3ヶ月で手をあげるんだ」という見通しでやった結果が、全部見通しが違って来た。

こんなことを考えますとね、ヒトラーも見通しを誤った。ソ連は3ヶ月で降伏するぞというようなことを内外に鮮明した。現に、日本で用事を終えた

ドイツのバイヤーが、満州からシベリアを通してドイツに帰ろうと思って、満州の国境に来た時に独ソ戦争が始まった。本社に電報を打ったら、「アー、3ヶ月待てよ。3ヶ月待って満州でも見物しておれよ。そうしている内にソ連が手をあげるから。そしてたらシベリア鉄道でゆっくり帰ってこいよ」というような電報が来ているわけですね。しかし現実にはどうかと言うと、これも又皆さんご承知の通りでございます。そんな風に考えますと、どうもこの世の中の指導者というものは、誤りばかりを犯して、我々はその巻き添えを喰って苦しんできているのではないか。というような感じが致します。

もう一つ、これも草柳大蔵と、ある筑波大学の教授の話テレビで偶然に見たんですが、その中でこんなことを言っているんです。人間は25才と60才とを較べると、ヘソから上は30%の体力減だと、ヘソから下は60%の体力減だということですね。そのヘソから下と言っても真中はどうかと言うと、その点はちょっと分りませんが、それも含めてだとは思いますが、そういうことです。それは、ある開業医が20年間かかって体力測定した結果出た結論だそうです。従ってそれを予防するにはどうしたらいいか、というのが、その草柳大蔵と、筑波大学の古藤という教授でしたかな、古い藤と書くんですが、古藤教授の話し合いなんです。そこで古藤教授が言うには、60近くなったらハーハーするような運動はしてはいかん。ハーハーですね。これはハーハーとはどういうことかと言うと、これは酸素の借金だと言うんです。酸素が足りないから、ハーハーして酸素を吸うんだそうですね。で、これはいけない。カーター大統領が日本に来て、ジョギングをやったもので

すから、たいてい皆んな老いも若きも真似をしているようですが、若い人はいいんですが、60前後になりましたらジョギングは用心すべきだ。まあして悪いとは言っていないけれども、ハーハーなるような状態でしてはいけない。と、こんなことを言っています。で、どうすれば良いかと言うと、結局歩くのが一番いいんだということです。何故歩くのがいいのかと言うと、人間の筋肉には赤い筋肉と、白い筋肉とがあるそうですね。私もそれは初めて聞きましたが、白い筋肉というのは、瞬間的に力を出すような場合に作用される筋肉で、相撲とか、ボクシングとか。赤い筋肉とはそうでなくて、ゆるやかな運動をする時に使う筋肉だということです。それで我々60前後になりましたら赤い筋肉を使えと。赤い筋肉を使うと何故いいかと言いますと、人間の身体の中には動脈、静脈があって、その動脈、静脈の長さは9万8千キロあると言うのです。これはどうもおかしいと思いましたが、全部つなげると9万8千キロあるということです。健康な状態を保つ為には、静動脈とも、両方の動脈、静脈を正常に作用させることが必要です。その為に、その赤い筋肉を使う。急激な運動ではなく、ゆるやかな運動の為に作用する赤い筋肉を使えば、静脈も動脈も機能が正常になると、こういうことでございます。私もそれを聞きまして、今迄毎朝歩いておるんですが、そのウォーキングという風に草柳大蔵さん言っていましたけども、そのウォーキングというのは、これからもずっと続けなければいかなあ、としみじみ感じた次第です。

まだ少し時間がありますけれども、この辺で失礼致します。

スマイル

- 松田貞夫君 出席委員会の本年度目標100%出席を6月4日の例会日に達成出来ました。
- 川村徳男君 上記についてご協力有難うございました。
- 藤川享胤君 当方での70年ぶりの授戒が無事に行われました。
- 松田士郎君 6月2日商工会議所主催の完走マラソンには多大のご協力をいただきました。

- 布施隆夫君 ローター会員200番目のよい男だそうです。
- 若生恒吉君 ローターアクト委員会の主催すべき会合に仕事の都合で欠席しましたので。

ビジター

- 鶴岡西R.C. 井上彬君・佐藤拓君
菅原年雄君・鈴木昭吾君
八幡慶二君

(今週の担当者 手塚 拓)